



- 1 さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ。
- 2 主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。
- 3 私たちは知ろう。主を知ること切に追い求めよう。主は暁のように現れ、大雨のように私たちのところに来られる地を潤す、後の雨のように。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安のうちに心身共に守られ、お元気でしたか。またオミクロン変異株によるコロナ感染6派が始まっている中で、今週一週間もどこでも守られ、日々健康であるように切にお祈り申し上げます！今日はホセア書の御言葉を通して、新年を迎えられた我らに神様が何を望んでおられたのか共にホセア書のメッセージに傾けたいと願っております。“今神が自身に、神が我らの家庭に、神が我らの教会に望んでおられるのは何でしょうか。

## <1. ホセアと当時の背景>

ホセア預言者の名前の意味は‘救い’という意味を持っています。ホセアという言葉はヨシュアと同じ根のヘブル言葉として‘自由にさせる、救われる’という意味を持っていた‘ヤシャ’から発生された言葉であります。ホセア書は全部14章で書かれています。今日我々が共に読んだこのホセア書は、神の預言者であったホセアを通して、神の御心を伝え、記録させた御言葉であります。預言者ホセアはイスラエルが北イスラエルと南ユダ王国に分かれた時代に、珍しく北イスラエルの出身の者で、北イスラエルの人々に預言者として働いていた人でした。同時代、南ユダ王国ではイザヤとアモス預言者が働いていたことが分かります。

ホセアが働いた時代はコロナ禍の中で不安で、混乱している今の時代ととても似てくるか、もっと不安と混沌の時代でした。ホセアが働いた紀元前8世紀、詳しくは755年～720年までの北イスラエルでは、後紀元前722年にアッシリア帝国によって北イスラエルの首都サマリアが完全に陥落され、滅ぼされる直前まで働いた神の預言者でした。

なので、ホセアの時代の北イスラエル王国では、政治的にも、当時ヤロブアム二世王以後、王室内では殺害や陰謀が引き続き、社会全体にとっても混沌の時代であり、社会天体的に動揺し不安が満ちていた雰囲気だったでしょう。

そのため、霊的な状態の面においても、神に捧げる聖殿で定義的な礼拝は捧げていましたが、形だけ宗教活動と儀式だけが残ってしまいました。不安と恐れに満ちていた北イスラエルの民は墮落してしまい、裏では偶像崇拜を蔓延し頻繁に起こっていました。つまり、北イスラエルの民たちは、神を信じる民だと言いながら、表では神に定期的に礼拝は捧げていましたが、実にイスラエルの民の心はもう神から遠く離れていたため、心から神を愛するのも、信じる者の生き方と姿はありませんでした。みんな自分勝手に生きようとした霊的に暗闇の状態でした。そのような二重的、偽善的な北イスラエルの民たちに神は預言者ホセアを通して語った御言葉が今日の本文の1－3節の御言葉です。主に立ち返れば、生かされ、回復されることを約束して下さっています。

## <2. ホセア書の内容と目的：神を離れた生き方をやめ、尽きない神の愛に立ち返ろう！>

このホセア書には他の神の預言者たちを通して記録された御言葉と違う独特（どくとく）な内容の面があります。

他の預言者たちはみんな神からの御言葉や命令を聞いてその神のメッセージを口で伝えたならば、預言者ホセアだけは自分が直接不幸な家庭を通して、言いかえりますと、直接自分の不幸な結婚生活を通して、今現在の北イスラエルの民たち彼らの霊的な状態とそれに対する神のメッセージを伝えたのです。ホセア書の前半1－3章までの内容がその内容にあたります。神様は神を信じる民イスラエルが神に背を向け離れ、自分勝手に目に見える神々を造り、それに拝み愛している姿が、まさに霊的な姦淫・霊的な浮気の状態であることを知らせるため、神の預言者ホセアに直接淫乱な女と結婚しなさいと命じました。ホセア書1章2節「主がホセアに語られたことのはじめ。主はホセアに言われた。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。この国は主に背を向け、淫行にふけっているからだ。」

大変従いにくい厳しい主の命令にも関わらず、預言者ホセアは神の命令に従い、淫らな女であったゴメルという女を自分の妻として受け入れました(1:3)。ところが、結婚した預言者ホセアの妻、このゴメルという女は堂々と家出てまた浮気をしたり、淫乱な行為をあきらめず続きます！それに、夫ホセアはその現場に行って、彼女を家に連れて来たら、また家を出て、他の別の男たちに行って、抱かれ淫らな不淫行を繰り返しつつ諦めませんでした。それでも、また神は預言者ホセアに淫乱な妻ゴメルを相変わらず、また家に連れて来て、妻として愛し続けるようにさせます。普通の家庭なら、一度の浮気であっても、決して許しがたいのに、常習的（じょうしゅう）に浮気をするなら、夫婦関係や信頼性がそれ以上は夫婦関係にはもう破られ、一切許せず、破綻になるはずなのに、どうして神の預言者ホセアがそこまでするように神様がホセアにそうさせたのか、理解しがたいところではありませんか。結婚の夫婦の誓約を裏切り、淫乱なホセアの妻ゴメルの姿は、当時神の前で神を背き、神の御言葉から離れ、偶像崇拜をしていた霊的な浮気を絶え続け蔓延していたイスラエルの霊的な墮落、信仰の墮落の姿を見せて下さいました。

神様はこのホセアの家庭の問題、その夫婦関係の状況を通して、神を信じる民たちに変わらない重要な事実を教えようとされました。それは、神様は、当時のイスラエルの人々に、このホセアとゴメルの夫婦の姿を通して、淫乱な妻ゴメ

人は今の神の信じているイスラエルの民の状況があることを示しながら、それにも関わらず、今でもまた神に立ち返るなら、神はイスラエルの民の今までの全ての罪を赦し、変わらず尽きない愛を与えて下さることを神はホセア預言者を通して伝えて下さいました！！

預言者夫ホセアを通して、それにも関わらず、淫乱な妻（イスラエル）がどんなにひどい罪を繰り返し続け、妻として、まったく資格のなくても、家に帰って来たら、また彼女を赦し、本来の妻として受け入れ、妻の立場に回復させる姿を通して、罪人である我らに向かう神の尽きない愛、変わらない神の愛と赦しを現して下さっているわけでありませぬ！！ホセアのように神様は神に立ち返るなら、あなた方を決して捨てないで、耐え忍びながら哀れみ赦し、愛し続けて下さる神様であられる真実をリアルに見せながら、教えて下さったのです。

ですから、妻ゴメルが偉かったのではなく、夫ホセアの一方的な愛と赦し、哀れみのゆえに、家庭が守られ、子供が生まれ、夫婦関係が維持されていたように、北イスラエルの民、彼らに特別な資格があるからでも、他の民族より偉いからでもまったくなく、一方的な神の憐れみと赦しの恵み、その尽きない神の愛のゆえに、ここまですべての関係が守られていることを悟らせ、また悔い改めに促して下さるために、このホセア書が記録された目的であります。

ホセア書2章23節～3章1節に「23わたしはわたしのために～あわれまれない者をあわれむ。わたしは、わたしの民でない者に、『あなたはわたしの民』と言い、彼は『あなたは私の神』と答える。3:1主は私に言われた。「再び行って、夫に愛されていながら姦通している女を愛しなさい。ちょうど、ほかの神々の方を向いて干（ほ）しびどうの菓子<sup>1</sup>を愛しているイスラエルの子らを、主が愛しているように。」

### <3. 神様が望んでおられること：神に立ち返る事＝信仰の基本に立ち返れ！（Back to the basics!）>

#### ①礼拝の回復（教会は神の臨在の中でともに集まって御前にささげ、委ね、献身する礼拝共同体）

愛する信仰の家族のみなさん！本来キリスト教の信仰は儀式的な信仰では決してありません。ある意味でそれがキリスト教と世の他の宗教との違いでもあります。

キリスト教は拝まれる像を作ったりしませんでした。古代宗教たちは共通点の一つあります。それは、いつも目に見える形か、あるいはある像を作ったりして、見える物か、人によって作られた物の前で拜んだり、崇拜する宗教行為と宗教儀式をみんな持っていることが分かります。しかし、神様はそんなことなどを決して喜ばれず、むしろ忌み嫌うことであるとはっきり命じられています。その体表的な内容が、出エジプト記20章4～5節で神様はイスラエル民たちに与えて下さった十戒に書かれていたでしょう。「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。」

ところが、徐々に教会の中にもそういう物が入って来るようになり、体表的なのが、中世期ローマカトリックの教会の中では自称‘聖像’という物が作られ、飾られて、教会の中でも拜んだり、本来の信仰から儀式中心のキリスト教に変わってしまい、結局墮落の道に歩んでしまった事を我々は世界史と教会史を通してよく知っています。

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！これはどんな意味でしょうか。神様は心からではないただある宗教的に儀式とか形を決して望まれ、喜ばれないお方であることを知る事ができます。生きておられる主の前で心から愛のない礼拝、信仰と献身のない礼拝の形や儀式的な宗教活動ばいなことを好まない神様の御心が示されています。

本文1節「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、また、包んでくださるからだ」

6章6節にも「わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない。全焼の捧げ物よりむしろ、神を知ることである」

#### <礼拝を通して神を知ろう>

ホセア預言者はイスラエルの民の神様に対する背きと偶像崇拜、不義と不正など、人間の罪の結果を扱う前に、一つ根本的なイスラエルの民問題の原因を指摘しています。それが4章のはじめの部分です。どんな問題でしょうか。4章1節をご覧ください。「イスラエルの子らよ。主のことばを聞け。主はこの地に住む者を訴えられる。この地には真実がなく、誠実がなく、神を知ることもないからだ。」一番大切な根本的問題は神を知る知識がなかったと言われました。

今日の本文3節にも「私たちは知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。主は暁のように現れ、大雨のように私たちのところに來られる地を潤す、後の雨のように。」

イスラエルの民は神を信じる形は持っていました、実際には神がだれであって、どんな方なのかについての実際体験し知ったことがなかったという事です。このホセア書の核心は神を知ろうということ。これは2章8、20節、4章1、6節、5章4節、6章など繰り返し強調されています。

ここで、大切な神様を「知る」という言葉の意味は、ヘブル語で「ダアツ(daath)」で、「知識・理解」という意味ですが、この「ダアツ」という言葉は、もともとヘブル語「ヤダ(知る)・ギリシャ語(ギノスコ)」という言葉から派生された言葉ですから、ここで、「ヤダ(知る)」という言葉は、決して、頭で知る情報や知識ではなく、まるで、夫婦が結婚して初夜(しょや)夫婦関係を結ぶ経験によって一体となり、お互いを深く知ることが出来た時に、この「ヤダ」という言葉は使われていた言葉であります！ですから、ここで神を知るというのは、情報的に頭で分かって知っている意味ではなく、体験として、個人的に、人格的に、親密的な経験によって知ることの意味であることを忘れないで

下さい。イスラエルの民たちは、神について聞いて頭ではわかっている、いつのまにか、礼拝を通してまったく神を体験することが出来なくなり、日常生活の中でも、まったく生きておられる神を体験したり、神様との関係はまったく切れていて日々生きておられる神体験、神を知ることはまったく出来てない状態でありました。

当時、イスラエルの民がこのホセア預言者を通して、与えられた神のメッセージに、神を知らないと言われたら、彼らは「はい！そうです！」と素直に同意が出来たと思いますか。当時のイスラエルの民は、ホセアに対して、あざ笑いをしながら、決してそう同意できなかったと思います。「おれたちこそ、ちゃんと毎週礼拝を捧げているし、一番神を知っている神に選ばれた特別な民族であり、今まで神に用いられ、祝福された民族だろう。我らこそ、真の神を知り、このように礼拝を捧げているのではないか。ちゃんと律法に書かれている内容を我らよりも、たくさん知っている者たちがおるのか。」自慢しながら、彼らはまったくホセア預言者からの神のメッセージを無視し、聞き従ってなかったのです！むしろ、神様は、あなたたちはわたしを知らない、無知である（神を愛してない、神と交わってない、神を経験してない＝神と関係のない者）と指摘して下さっているのです。神様が我々に本当に願っておられ、喜ばれることは何でしょうか。形だけの礼拝ではなく、心から神を愛し、神の御言葉に慕い求め守り行い、神の臨在の中で神と交わりつつ、主とともに歩もうとする心からの礼拝ではないでしょうか。

コロナ禍が続いている中でも、今年1年も、これからも礼拝に成功するクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます！みなさん！間違いないように！主の日に教会に来られ、捧げる礼拝は決して、不要不急な扱いにさせないで下さい！神に礼拝を捧げることは決して、不要不急ではなく、我らの人生において、もっとも大切な神の臨在の中で生ける神の恵みを、神の回復と癒しの御力を頂ける必要緊急なことでしょう。神にささげる礼拝に心を尽くし、命を尽くして、礼拝を通して神の臨在の中で神の愛と恵みを、神の赦しと憐れみを、神の力を知り、体験する礼拝の成功者たちとなりましょう。一週間の勝敗が、一年の勝敗が、これからの我らと子供たちの人生の勝敗が主日神の御前に出て共に捧げる礼拝にかかっていることを忘れないようにしましょう。

生きておられ、すべてを知っておられる神の御前で宗教生活的な、趣味的な形だけの礼拝はもうやめましょう！もう一度礼拝に、神に心を尽くし、礼拝に集中し、身も心も委ね、任せ、捧げてみませんか。いつも心から真の礼拝を捧げる信仰とその姿勢が回復される我らとなりますように切に祈ります。我らのクリスチャンプレイズチャーチは神の臨在の中でともに集まって御前にささげ、委ね、献身する礼拝共同体です。コロナ禍が続く今年一年中にも、これからもクリスチャンプレイズチャーチが存在している限り、毎週の主の日の朝、教会で捧げる礼拝を中断することも、休みこともありません！どんな時にも出来れば教会で共に礼拝を捧げるにより、礼拝を通して、毎週神を益々体験し、大いなる神の力と御業を経験して行くクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祝福いたします！アーメン！

## ②悔い改めの回復

神はどんな罪を犯したとしても、神と神の御言葉の約束を信じ、従って神に立ち返って悔い改める者たちを喜ばれ、彼らを癒し、回復の恵みを与えて下さいます！  
今日の本文1節に「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。」神の御前に立ち返り、真の礼拝を捧げる者と、今悔い改めるすべての者たちを、神様はまた包んで下さり、回復させて下さるお方であることを表して下さっています。

愛する信仰の家族のみなさん！我々が信じている神様は我らにどんな深い傷や過ちがあってもそれを癒し、まことの回復をさせて下さるお方です。もちろん、時には我らが犯した罪やあやまちのため、神に打たれたりされる時もあるでしょう。しかし、神様は必ず、差し伸べて下さる赦しと救いの御手に我がちゃんとその手を掴み、神に立ち返って来る者たちには、必ず彼らを赦し、回復の恵みを与えて下います。神との約束を破り、神から離れ、神を裏切り、偶像崇拜をやった時でさえも、神様はイスラエルの民たちに「ロ・アミ」と名づけながら「あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」といわれましたが、また主に立ち返って悔い改めるなら、「アミ」つまり「わたしの民となる」と彼らの神となって下さり、ご自分の罪を赦し、変わらない愛を持って神様との関係と彼らの人生を回復させて下さることを明らかに約束して下さっています。

本文、2節を見ると「主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。」と書かれています。この御言葉の意味は、神の回復の即刻（そっこく）な、迅速（じんそくせい）な神の赦しと癒し、回復を約束される御言葉であります。3節を後半見ると「私たちは知ろう。主を知ることを切に追い求めよう。主は暁のように現れ、大雨のように私たちのところに来られる地を潤す、後の雨のように。」と言われました。この箇所の意味は、夜明け（よあけ）がかならず来るように、主も必ず来られ、毎年、地を潤すために降らせる雨のように、神は神に立ち返る全ての者たちに、かならず具体的に助けて下さる、そして潤うさせ、必要を満たし本来の神の喜ばれ、望んでおられる人生として回復させて下さるという約束です。いつも我々のそばにおられる神様は我々の痛みと傷、そして、全ての罪と弱さも全て知っておられ、ご存知です！しかし、今、すぐ神様に立ち返り、すべてを神の前に告白し、悔い改める者には、すべての赦しと新たな人生の始まりを許して下さい。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん！神に立ち返ることを躊躇せずに、後回しにしないで下さい。今すぐに神の御

御言葉を信じ、従って、示されたままに、神の御前で遡り、自身の罪を認め、さらけ出し、悔い改めていきましょう。主はそれを喜んで下さいます。是非自分の努力を全部やって見てから、最後の最後で自分でどうしようもできない時になってから、ようやく神様に立ち返ろうとすることこそ、神の前で人として一番愚かなことではありませんか。大変残念ながら、北イスラエルの民たちは、だれでもわかりやすく今のイスラエルの民の罪を示し、赦され救われる道をも示して下さったのにも関わらず、心がかたくなって最後までホセア預言者のメッセージに傾聴せず、聞き従いませんでした。その結果、北イスラエルはまもなく、数年後に実際、紀元前 BC 722 年にアッシリアという帝国に完全に滅ぼされることになってしまいます！**神の御言葉にいつも応答するのは今です！神様からの赦しを頂ける、悔い改めるタイミングも今であります。神の救いを受けるのも今決心することを神は我らに促して下さっている今日の本文の御言葉であります。神に立ち返るのは我らが今年も生きれる道であることを今年中忘れないようにしましょう。**

愛するクリスチャンブレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

神様は我らが完璧な者ではないことをご存じであります。神の前で完璧に生きることも望まれません。時には、願わなかった罪を犯し、神様が喜ばれないことを知っていながらも、忌み嫌うことをやってしまう失敗の時もあるでしょう。実に、神の憐れみと尽きない愛と赦しがなかったならば、この世の中で生き残される人は何人ぐらいでしょうか。ただ一方的に上から今も変わらず注がれている神様の恵みのゆえに今も我らは赦され、救われているではありませんか。**神に立ち返る時こそ**、神によってみなさんの傷が癒され、我々を愛されている神の子どもとして本来の自分らしく回復される道で歩み続けられると信じます。ですから、**いつも、神に立ち返ろうと信仰の心構えと謙遜な姿勢を保つ我々となり、神に赦され、愛され、喜ばれるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！！アーメン！！**

**申命記 6 章 4-5 節「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」**

ですから、神様が信じ、従っている我々に神様が一番望んでおられることは、**我らの愛の心！**そのものであることでしょう。本来のイスラエルの律法によれば、夫や妻がいる、既婚者の妻や夫が、浮気をし、姦通した場合に、石投げをして殺すほど、重大な罪として罰せられた（申命記 22 章 22 節）のにも、関わらず、**神様はその律法を超えて、耐え忍びながら、最後まで神を信じる民を愛しつつ、赦され、やり直し、回復される機会を最後まで与え続けて下さいました。**

## <まとめ>

愛するクリスチャンブレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！愛するみなさんは最近いかがでしょうか。今も神様が我らに願い、喜ばれることは、Knowing about God (神について) 知ることがなく、**Knowing God! (神を實際体験する = 真の礼拝と悔い改める)** することであることが分かります。みなさんは、毎週礼拝を通して、そして、日々の生活の中で神に立ち返り神の御言葉通りに悔い改めることを通して、今もなお、生きておられ共におられる神様を實際体験しける全クリスチャンブレイズチャーチの信仰の家族の家族となりますように！いつのまにか、ただ、神様と神様の御言葉について頭で知って、分かっているところで止まっているではありませんか。今日も神様が望んでおられることは今も生きておられ真の礼拝への回復を望んでおられます。いつも神の御言葉を信じ、従って悔い改めことによって、神様との愛と赦しの親密な関係と交わりが回復されて行くことを望んでおられます。

**フランスの世界的な神学者であり、哲学者であり、数学者だったブレイズ・パスカル (Blaise Pascal)** という人は彼の名作「パンセ」(仏: pensée) は日本語で「思考」の意味) で、彼は「**人は神を正しく知らない為、人は自分を正しく知ることが出来ず、常に不安である**」と指摘しながら、人が神を知り体験することこそ、人らしさを取り戻すことが出来る近道であることを述べています。今の時代預言者のような存在はいませんが、旧約時代より、明確に神を知り、体験出来る事が与えられています。毎週の礼拝の中に治め、臨在される神様を体験しながら、聖書の御言葉を通して、日々神様を悟り、体験していくことが出来るでしょう。恐れ、不安な時にすぐ神様に頼り、委ね切って歩めます。礼拝と神の御言葉を通して、神を知れば知るほど、混沌と不安なこのコロナの時代の中でも、シンプルにまっすぐな生き方に変わっていくことが出来ます。

**17 世紀後半から 18 世紀前半万有引力 (ばんゆういんりょく・Universal gravitation) の発見などの世紀多数の業績で知られているイギリスの物理、天文学者であり、哲学者、数学者であったアイザック・ニュートン (Isaac Newton)** は残念ながら、晩年の時に記憶喪失になり、一生涯あんなに積み重ねて来た全ての知識を忘却 (ぼうきやく) してしまい、自分の名前も、誕生日すら覚えられないニュートンの弟子たちがある日訪ねて来て、こう言われました。

“先生、生涯勉強と研究ばかり励んで来られた、数え切れないほどの理論や知識が先生の頭に全部消え去ってしまったのは本当ですか。本当に何も覚えられないのでしょうか。” その時、ニュートンはあの有名な言葉を残しました。

**“私が知って覚えている一つはある。それは自分が罪人であることと、イエスキリストが私の救い主である事実だ！これ以外にもっとどんな知識がいるの。”**

愛する信仰の家族みなさん！神様をより深く知ろうとすればするほど、我々の生き方が変わり、我々の価値観が変わり、癒やされ回復されて神の喜ばれる人生として満たされて行くと信じます。今年今日からもう一度真の礼拝の回復を通して、我らに与えられている神の約束の御言葉に従って悔い改めることを通して、いつも神の赦しと憐れみを深く体験しつつ、神との関係が回復され、癒やされ回復され潤うされた 2022 年となるクリスチャンブレイズチャーチ全神の信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈りいたします！アーメン！